
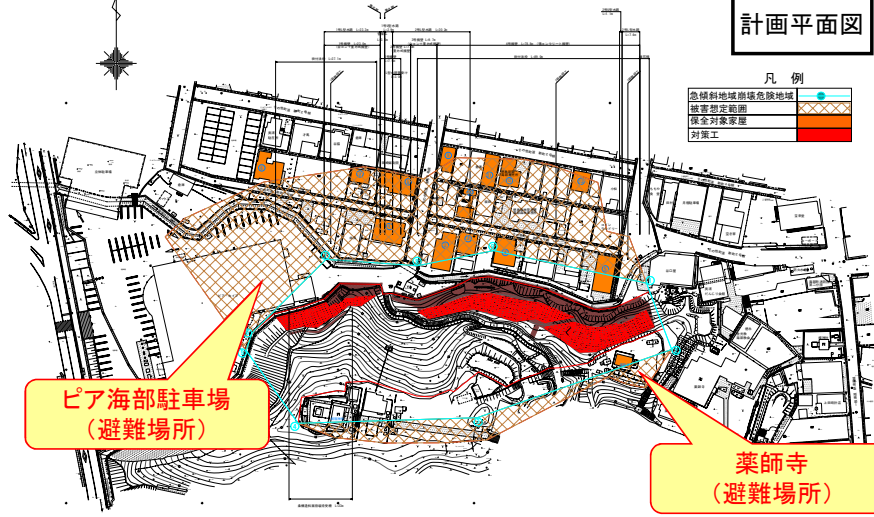
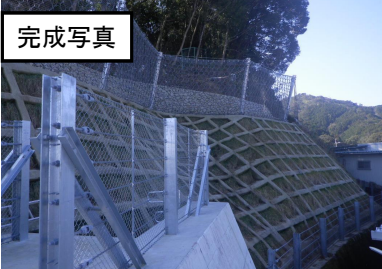


砂防事業 事後評価結果

担当課 : 砂防防災課

担当課長名 : 金山 壮一郎

事業の概要

事業名	急傾斜地崩壊対策事業	事業区分	急傾斜地崩壊対策事業	事業主体	徳島県
事業箇所	徳島県海部郡海陽町奥浦	箇所名	新町急傾斜地崩壊危険区域		
事業概要					
重力式擁壁 L=47.3m, 張コン擁壁 L=78.8m, 柔構造斜面崩壊待受柵 L=23m, 吹付法砕工 A=1109m ²					
事業の目的・必要性					
当該箇所は、人家13戸を含むがけ高20m、勾配32°の急傾斜地である。保全対象には、地域防災計画に記載された避難場所であるピア海部駐車場・薬師寺が含まれている。平成24年度の台風により小崩壊した箇所が見られることから、早急に斜面対策を実施し、避難場所を含む施設・人家を保全する必要がある。					
総事業費		184百万円			
事業概要図・写真					
 <p>施工箇所</p>		 <p>計画平面図</p> <p>凡例 急傾斜地崩壊危険地域 被害想定範囲 保全対象家屋 対策工</p> <p>ピア海部駐車場 (避難場所)</p> <p>薬師寺 (避難場所)</p>			
 <p>完成写真</p>					

事業評価結果

評価項目	評価内容
①費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	計画全体事業費170百万円→184百万円 計画工期H24～H28→実施工期H24～H28 着手時B/C=3.7→完成時B/C=3.7
②事業の効果の発現状況	・擁壁の設置により、がけ崩れからの不安が払拭され、安全に暮らせる環境が整備された。 ・地域防災計画に記載された避難場所であるピア海部駐車場・薬師寺を保全することで、防災体制の強化が図られた。
③事業実施による環境の変化	法砕工選定部については、砕内に植生工を施工し、法面の安定と自然環境の保全が図られた。
④社会経済情勢の変化	土地利用や保全対象に変化は無く、事業の必要性は確保されている。
⑤課題と今後の事業への反映	災害時要援護者施設の保全や緊急輸送路の整備など、事業効果の高い箇所から重点的に整備し、災害時においても安全かつ安心できる生活基盤の確保に貢献する。

費用対便益	区分	基準年	B/C	総費用		総便益	
	着手時	平成24年	3.7	185	工事費、調査費	687	人家13戸・薬師寺
	完成時	平成29年	3.7	227	工事費、調査費	838	人家13戸・薬師寺

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※保全対象については、着手時は概略調査、完成時は詳細調査結果に基づいているため、現地状況により数値が異なる場合がある。